

学級活動学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校 教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成19年12月〇日 (〇)

2 場 所 教室

3 学 年・学 級 第3学年〇組

4 題 材 名 「お互いに深くかかわろう」

5 題材について

○ 題材観

中学生活も残り半年を切った。本題材は、卒業までの生活の中で、学級の諸問題や、不安や悩みを抱えている仲間に関心、それを改善・解決していくために自分ができることを考え、行動できる態度を育てることをねらいとしている。そこで、後期の行事の取り組みと関連させながら、計画的に指導・援助していきたいと考えている。

まず、体育祭の取り組みの中で、仲間のかくれたがんばりや、意外な一面に目を向けさせた。一目瞭然でわかるがんばり（たとえば、走るのが速い）もあるが、ここでは、かげでがんばっている仲間に関心、それを学級で共有した。これを導入とし、残りの中学生活の中で、生徒一人一人が仲間に対してできる援助について考えさせ、具体的にどのようにかかわっていけばよいのか学習しながら、仲間とのかかわりを深めさせていきたい。

○ 生徒観

本学級の生徒は、全体的に明るく活動的である。6月下旬の〇〇祭（文化祭）におけるクラス合唱の取り組み、総合的な学習の時間で取り組んだプレゼンテーションや修学旅行の班別自主研修の取り組みなど意欲的に行うことができる。

一方、日々の生活では、軽率な発言で相手を傷つけるような姿や、「自分さえよければそれでいい」というような行動が見られる。班活動では班長がうまく指示を出せない・班員も指示が出ないと動かないなど、お互いのかかわりが下手な場面もよく見受けられる。つまり、自分の考えや意見を発表したり提示したりするプレゼンテーション能力は高いが、日々の生活の中で、お互いにかかわり、協力して解決していこうとする態度は十分でないと思われる。

そこで、この題材を通して、仲間のよさに関心、認め、さらに、仲間にかかわるといふ、生徒一人一人の行動の変容を期待したい。

○ 指導観

一つめは、生徒は様々な悩みや不安を抱えて生活しているが、生徒たちが自分の不安や悩みに向き合いながら、その解決を目指し、夢や希望をもってたくましく生きていく態度や行動力を育てたいと考えた。

二つめは、自分の短所を仲間からフォローしてもらい、自己肯定感を高めることである。ここでは、共通する短所をもった生徒同士がグループになり、短所を肯定的にとらえ、学級にアピールさせる。「どうせ僕は（私は）」と思っていた生徒たちが、仲間から肯定的な意見をもらって、「自分にもこんないいところがある」と気付いていく体験をすることにある。

「短所だと思っていたところも、見方によっては長所にもなり得る」ということに気付かせたい。さらに、自分のいいところも、悪いところも、そのまま認め、受け入れていくことができれば、より深い自己肯定感につながる。ここでは、構成的グループエンカウンターとい

う方法を取り入れて、育んでいきたい。

三つめは、仲間のよさに気付き、それを仲間に伝えることで相互理解を深めることである。自己の個性を見つめ、それを大切にしていくこと、さらに、他者の個性を理解し互いに尊重し合うことは豊かな人間関係を育んでいくことにもつながる。活動を通して、学級の生徒の相互理解を深め、ともに問題解決に取り組んでいこうとする雰囲気や意欲を育てていきたい。

6 題材の目標

仲間のよさに気付き、仲間とのかかわりを深める。

7 題材の観点別評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の一員であることを自覚し、主体的に取り組もうとする。 ・ 学級の諸問題や不安・悩みを抱えている仲間に気付き、改善・解決していくために自分ができることを考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間を尊重しながら、声かけやアドバイスの方法を考えることができる。 ・ 今後の活動について見通しをもって考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを文章で表現したり、班のメンバーや学級全体に発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間の言動を肯定的にとらえることで、自己への理解を深めている。

8 指導と評価の計画

次	時	学習活動	評価規準（・）および評価方法【 】
1	1 h	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育祭の反省【体育祭のMVP】 ・ 仲間のがんばりに気付き、残りの中学校生活で自分が仲間に対して援助できることを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを発表することができる。〔技能・表現〕 【教師による観察】 ・ 学級の諸問題や不安・悩みを抱えている仲間に気付き、改善・解決していくために自分ができることを考えようとする。 〔関心・意欲・態度〕 【教師による観察】
2	1 h	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の気持ちに素直に、かつ相手にわかってもらえるように自己表現・自己主張するためのスキルを高める。 エクササイズ 【役者になろう】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の一員であることを自覚し、主体的に取り組もうとする。 〔関心・意欲・態度〕 【教師による観察】 ・ 仲間を尊重した発言の仕方を考えることができる。 〔思考・判断〕 【教師による観察】 【振り返り用紙】

3	1 h (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの短所について肯定的にとらえ、お互いにアドバイスを考える。さらに、学級でアピールする。 エクササイズ 【めざせカウンセラー】 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間の言動を肯定的にとらえることで、自己への理解を深めている。[知識・理解] 仲間へのアドバイスの方法を考えることができる。[思考・判断] 【教師による観察】 【振り返り用紙】
4	1 h	<ul style="list-style-type: none"> 仲間への援助の経過を振り返り、課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間へのアドバイスを改めて見つめ直し、課題について考えることができる。[思考・判断] 【教師による観察】 【振り返り用紙】
5	1 h	<ul style="list-style-type: none"> これまでの取り組みをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間の考えを肯定的に受け止め、今後の活動について見通しをもって考えることができる。 [思考・判断] 【教師による観察】 【振り返り用紙】

9 本時のねらい

- 仲間へのアドバイスの方法を考えたり、仲間のアドバイスを肯定的に受け止めたりしながら、自己肯定感を高めていく。

10 本時の展開

	活動内容	教師の支援	評価規準（・）および評価方法【 】
導入	1 本時の活動内容を知る。 ○ グラフのタイトルを考える。	<ul style="list-style-type: none"> グラフから、中学生が悩みを相談する相手は友達が多いことを伝える。お互いに相談に乗ったり、アドバイスできるようになることの大切さを話す。 	
展開	2 エクササイズを行う。 ○ 3人または4人グループになる。そのグループが共通の短所をもった仲間であることを知る。 ○ 各グループで、自分たちの短所を長所としてとらえてみる。 ○ 各グループで、自分たちの短所についてお互いにアドバイスを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に短所についてアンケートをとり、共通の短所をもった生徒同士のグループをつくっておく。 生徒の会話を注意深く聞く。 自分たちの短所について、お互いに真剣にアドバイスできるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間へのアドバイスの方法を考えることができる。

	<p>3 シェアリングをする。</p> <p>○ グループで考えたアドバイスをそれぞれ発表する。</p> <p>○ 活動を通して自分について気付いたことや仲間から気付かされたことや学んだことを考え、振り返り用紙に記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が脱線していないか気を配り、脱線しているようなグループには軌道修正するよう指示を出す。 ・ 発表する側の姿勢と聞く側の姿勢について確認する。 	<p>〔思考・判断〕 【教師による観察】</p>
終末	<p>4 今後の仲間への援助の仕方を確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ エクササイズを振り返り、仲間のアドバイスを肯定的に受け止めることができる。 <p>〔知識・理解〕 【振り返り用紙】</p>

【参考文献】

- 中学校学習指導要領解説 ー特別活動編ー (平成10年12月)
- 吉澤 克彦 編著
『構成的グループエンカウンターミニエクササイズ50選 中学校版』(明治図書出版)
- 片野 智治 編集
『エンカウンターで学級が変わる 中学校編』(図書文化社)
- 諸富 祥彦 千葉市グループエンカウンターを学ぶ会 編著
『エンカウンター こんなときこうする! 中学校編』(図書文化社)
- 國分 康孝 國分 久子 片野 智治 編著
『構成的グループエンカウンターと教育分析』(誠真書房)
- 河村 茂雄 著
『データが語る② 子どもの実態』(図書文化社)

めざせカウンセラー

グループの仲間

私たちの短所は

まずは、自分たちの「短所」を「長所」としてとらえてみましょう。

次に、自分たちの「短所」についてお互いにアドバイスをしてみましょう。

あなたが考えたアドバイス

グループで出たアドバイス

____年 ____組 ____番 名前

振り返り用紙

年 組 名前

*今日のエクササイズを思い出しながら、下書いてあるポイントで振り返ってみましょう。

(1) 何か自分について気が付いたこと

(2) 仲間から気付かされたことや学んだこと

() くん・さんから _____

() くん・さんから _____

() くん・さんから _____

(3) 今日のエクササイズの感想

(4) 今後の援助の仕方について

() くん・さんが

() していたら

() しようと思う。

理由は ()

だから。

《エクササイズ例》

題名	目的	内容
<p>X先生を知る イエス・ノークイズ 【自己理解】</p>	<p>中学校生活の窓口になる担任をよく知り、不安を軽減するとともに、担任の自己開示をモデルとして自己紹介ができるようにする。</p>	<p>四人組をつくり、担任が自分に関するクイズを読み上げる。クイズの答え（イエスまたはノー）をグループで相談して決める。全問終わったところで、担任はユーモアを交えて自己紹介しながら正解を発表する。</p>
<p>君はどこかで ヒーロー 【他者理解】</p>	<p>体育祭が終了した後、勝敗に関係なく人のために活躍したり、貢献した生徒が、他の生徒からのフィードバックで自己有用感を得る。</p>	<p>体育祭の前に、生活班で「どのような働きをする人が体育祭を盛り上げるか」について討論し、思いつくことを短冊に書き出す。体育祭終了後に、班で相談し、ふさわしい働きをした人にその短冊を手渡す。</p>
<p>月世界 【自己主張】</p>	<p>個人の決定から合意によるグループの決定を通して、グループが意志決定していくときに生じるさまざまなことに気付く。</p>	<p>宇宙船が母船から 10 km離れた月面に不時着した。母船にたどり着くために必要性の高い物資に順位付けをする。個人決定とグループ決定の両方を行う。</p>
<p>身振り手振り 「新聞紙の使い道」 【信頼体験】</p>	<p>言葉を使わずに考えや気持ちを伝えたり受け取ったりする体験を通して、生徒相互の人間関係をより親密にする。</p>	<p>6人グループをつくりリーダーを決める。リーダーは与えられた課題を、メンバーの前で無言でジェスチャーで表現する。メンバーが新聞紙の使い道をできるだけたくさん考え、ジェスチャーでリーダーに示す。リーダーが記録し、グループで競う。</p>
<p>さいころトーク 【自己理解・他者理解】</p>	<p>話を聞く体験、話を聞いてもらえる体験を通して、自分と他者を考える。</p>	<p>4～6人程度のグループをつくり、順番に出た目の話題（楽しかった思い出、熱中していること、失敗したことなど）についてスピーチする。</p>

身振り手振り「新聞紙の使い道」

振り返り用紙から(生徒の感想)

- ジェスチャーってけっこう大変だということが分かった。でも相手に伝わった時はうれしかった。
- 言葉がなかったら、こんなに必死になって人に伝えなければならないのかと思った。でも、楽しかったので、またやりたい。
- 言葉がなくても、愛を感じる事ができた。ジェスチャーはとても楽しかった。
- 普通に話すよりも、心が伝わりやすい気がしました。楽しかったです。私は日本語しかしゃべれないけど、ジェスチャーなら世界中の人に分かってもらえるだろうと思いました。
- カナダに行くときはなかなか言葉では伝わらないこともあると思うから、ジェスチャーが大切だなと思いました。
- 今回、言葉がなかったらけっこう大変だと思った。でも、言葉がなかったら、ジェスチャーという手段があり、それは役立つと思った。意外と相手にもものは伝わると思った。多分、自分の考えとかは難しいと思う。(伝えるのが…)
- 意外と難しかったり、案外すぐ伝わったり、楽しかった。伝わらなかったら、つい口で言いそうになったり、言葉に頼ったり、やっぱ言語？って大切だなと思った。
- 言葉なしでは、なかなか自分の思いを伝えることはできないんだなあと思った。だから、言葉で伝えることはとても大切なことだということが分かった。
- とてももどかしい感じがしました。改めて普段使っている言葉の重要性を知りました。
- 言葉がないと伝わるのに時間がかかるし、大変だし、ジェスチャーだけだと難しいと思った。相手に正しく伝えるということは大変だなと思った！！
- 毎日、口(言葉)を使って人に考えを伝えているので、ジェスチャーは難しかった。新聞紙の使い道は全然、出てこなかった。もし、口が使えなくなったら、普通に生活できないなあと思いました。
- ジェスチャーでも伝わるけれど、言葉を発しないと全然わからないなあ…と実感しました。言葉を使わず、ジェスチャーだけだと切迫感が出て、早く理解しなきゃって思う。余裕をもってコミュニケーションをとるには、言葉を使わないといけないなって思った。

「役者になろう」指導案

(ねらい) 自分の気持ちに素直に、かつ相手にわかってもらえるように自己表現・自己主張するためのスキルを高める。

場面	教師の指示 (●) と生徒の反応・行動 (☆)	留意点
インストラクション	<ul style="list-style-type: none"> ● 皆さんは、ふだん、自分のものの言い方について考えたことがありますか？ ていねいな人、乱暴な人、ストレートな人、まわりくどい人、いろいろな言い方をしている人だと思います。今日は、このような「ものの言い方」について考えてみましょう。 ● まず、4人1組をつくってください。グループができたところはジャンケンをしてA, B, C, Dを決めましょう。 ☆ 楽しそうに、でも何をするのかちょっぴり不安そうに行う。 ● これから、皆さんに役者になったつもりで簡単な演技をしてもらいます。プリントを配りますから、まずはシナリオ1のところを見ていてください。 ————— プリントを配布する。 ● 配役は黒板に書いた通りです。1回目の自分の役と演技を確認しましょう。役者②の人には3種類のタイプのセリフがあります。役者②の人が、タイプ1～3の場合まで、同じ配役で3パターンやってみてください。終わったら、2回目の配役に移ります。このように、4回目までやってすべての役を経験してみましょう。 ● では、シナリオをちょっと読んでみます。 ————— 3タイプの人物像にふれて説明する。 ● 演技をするときのポイントは2つあります。1つ目は役の気持ちになりきって演じることです。俳優になりきってみてください。2つ目は、どんな言い方が感じがよいか考えてみることです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● やり方はていねいに説明する。1つの班を例に出して具体的に言うといい。 ● 配役、役者②が続けて3タイプ演じることなど、よく理解させる。 ● セリフの内容にもふれ、感情移入しやすくする。 ● 板書して、目的をはっきり理解させる。
エクササイズ	<ul style="list-style-type: none"> ● では始めましょう。監督さん、「スタート」の合図をよろしく。 ☆ 恥ずかしそうだが、思い切って始める。 ● (全部の班が終了したところで) はい、やめ。どうでしたか？ ● 次は、シナリオ2をやりませう。手順はさっきと同じですが、今度は役者②のセリフが書いてありません。自分がそれぞれのタイプになったつもりでセリフを書き込ん 	<ul style="list-style-type: none"> ● 恥ずかしがらずに、役の気持ちを考えてオーバーに演じるようにさせる。 ● 巡回し、書けない生徒にアドバイスする。

	<p>でみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● みんな書けたかな？ではシナリオ2を始めましょう。 ☆ 慣れた感じで一斉に始める。 ● （全部の班が終了したところで）はい、やめ。 	
シ ェ ア リ ン グ	<ul style="list-style-type: none"> ● 今、3つのタイプの人物を演じたり観察してもらったりしました。その中で気付いたこと、感じたことを班で話し合ってみてください。どのタイプがいちばんよい感じでしたか？ ● では、どんな話が出たか、班ごとに発表してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 演じた感想だけでなく、観察してみた感想など幅広く考えさせる。 ● シェアリングの代わりに振り返り用紙に記入させ、個別に発表してもよい。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ● 今日演じてもらった3つのタイプの人物は、必ずしもこのタイプにならないといけない、というお手本ではありません。皆さんが、今まで自分はどんな言い方をしていたのか、まわりの人がどう感じていたのか、これからどうすればいいか、考えるきっかけにしてくれればよいなと思います。自分の気持ちを素直に伝え、さらにそれが相手にとって感じのいいものであるようにしたいですね。 	

【参考文献】

- 國分 久子 片野 智治 編集
『エンカウンターで学級が変わる Part 2 中学校編』（図書文化社）

「役者になろう」 ワークシート

◆役者②の3種類のタイプ◆

タイプ1	=	自分のことしか考えず、相手のことを考えないタイプ
タイプ2	=	自分のことは考えず、相手のことを気にしすぎるタイプ
タイプ3	=	自分のことは考えるが、同時に相手のことも考えるタイプ

■配役表

	役者①	役者②	監督	観客
1回目	A	B	C	D
2回目	B	C	D	A
3回目	C	D	A	B
4回目	D	A	B	C

■シナリオ1

- (監督 : 「タイプ〇。よ〜い、スタート！」)
役者① : 「(放課後)部活も終わったのに、教室で何やっているの？」
役者② : 「うん、仕上がらなかった絵をかいているんだよ。」
役者① : 「そんなんだ。でも、もういっしょに帰ろうよ。」
役者② : (この絵を仕上げから帰りたいと思っている)

▼タイプ1

いやだよ。この絵を仕上げから帰るんだ。今仕上げないと、あしたの朝、早く学校へ来てやらなきゃならないんだ。先帰ってよ。じゃーね。

▼タイプ2

うーん、どーしようかな。わかった、一緒に帰ろう。誘ってくれてありがとう。今、したくするからね。(あしたの朝、早く来なくちゃ)

▼タイプ3

この絵を仕上げから帰りたいんだ。あと20分だから待っててくれる？でも。もし忙しかったら先に帰っていいよ。誘ってくれてありがとう。

観客 : 拍手

年 組 番 名前

■シナリオ2

(監督 : 「タイプ〇。よ〜い、スタート！」)

役者① : 「ねえねえ、あした、国語のテストあるよね？」

役者② : 「え？ (時間割を見て) ああ、あるよ。でもなんで？」

役者① : 「いや、あのね、国語のノートを貸してもらえないかな？ 国語のノートが行方不明なの。」

役者② : (国語のノートはテスト勉強に必要なだと思っている)

▼タイプ1

▼タイプ2

▼タイプ3

観客 : 拍手

※役者②のセリフをタイプ別に考えてみよう。

▼タイプ1

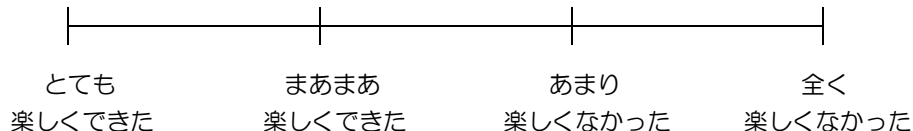
▼タイプ2

▼タイプ3

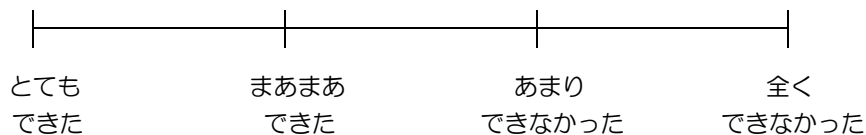
振り返り用紙

年 組 番 名前

1. あなたは今日のエクササイズを楽しくできましたか。



2. あなたは素直に思っていることを表現できましたか。



3. 何か自分について気が付いたことを書いてください。

4. 仲間から気付かされたことや学んだことを書いてください。

5. 今日のエクササイズの感想を自由に書いてください。

あなたの短所を教えてください。

名前()

あなたの短所を教えてください。

名前()

あなたの短所を教えてください。

名前()